

第2回 横浜市踊場公園こどもログハウス指定管理者選定委員会議事録	
日 時	令和8年7月31日（金）13時00分～14時30分
開 催 場 所	戸塚区総合庁舎9階特別会議室
出 席 者	金山委員、菊池委員、後藤委員、福本委員、山ノ内委員 区）地域振興課長 堀内、野戸、秋山、緑川
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴者4人） 審議については非公開（傍聴者退出）
議 題	1 定足数の確認 2 申請団体によるプレゼンテーション及び質疑応答 3 審議
決 定 事 項	1 定足数の確認 委員全員が出席のため、委員会は成立 2 横浜市踊場公園こどもログハウス指定管理者の候補者について 公募要項で定める最低基準の6割を超えたことを確認し、「公益社団法人とつか区民活動支援協会」を指定候補者として区長に報告する。
議 事	1 定足数の確認 委員全員が出席のため、委員会は成立。 2 申請団体によるプレゼンテーション及び質疑応答 「公益社団法人とつか区民活動支援協会」によるプレゼンテーション10分を実施。 【質疑応答】 委 員）職員の体制について。職員は10名いると伺っているが、職員の入れ替わりの状況や離職率はどうか。職員2人体制だと見守りに不安があると思うがいかがか。 団 体）離職率の数字はないが、かなり低いと思われる。スタッフはほとんど3～8年と長く勤めている状況。 委 員）新人職員への業務引継ぎやOJTの実施状況はどのようになっているか。 団 体）OJTは、就業前研修として半日ほど業務の流れと協会の組織について学んでいる。基本的には先輩職員とペアになって勤務しながら、子どものトラブルに関する対応方法を習得していくため、成長スピードは速いと思う。 委 員）採用するときに、重要している点は何か。 団 体）土日祝日も開館しており、職員10人で均等にシフトを割り振っているため、原則シフトどおりに入れるか確認している。また、子どもを見る職業のため、子どもがトラブルを起こしてしまった場合に注意で

	きるかどうか、高学年の子どもから強い口調で話された場合でも適切に対応できる芯の強い方を面接で選考している。 委員) 財務状況について確認したい。今期の予算計上から各行事に充てる特定資産を計上しているが、毎年開催されるものなのか。 団体) 周年事業のコンサートは毎年行っているもの。公会堂の予約システム導入、監視カメラの設置は今回限り。什器の更新は毎年行っている。記念事業の開催資金は協会が管理している各施設の周年イベントのために計上しており、単年度で支出するものは計画的に予算に計上すること。と、神奈川県から指導があり、今年度からこのように記載している。 委員) 退職金制度について、中退共に加入しているのか。また、負債の部には賞与引当金が計上されているが、その他に計上すべき債務はないか。 団体) 中退共に加入している。計上されていない債務はない。 委員) 近年、子どもと家庭の課題は変化しており、子どもの障害、家庭環境等の背景をどのように汲み取り、考え、職員は子どもと関わっているのか。また、区役所子ども家庭支援課、児童相談所と連携していると話していたが、子どもの権利擁護の観点でどのような研修行い、また子どもの意見表明に関わる部分を聞き取っているか。 団体) 数年前に、家庭における養育状況が懸念される子どもが、ログハウスに来ていた時期があった。職員も声掛けなどを行い、気にかけており、児童相談所から当該児童への問合せに対応したことがある。施設に「気づきノート」というものを設置しており、職員間で子どもに関して気になった事柄を共有する仕組みづくりを行っている。また、子どもの虐待等が疑われる事案への対応に関し、こども家庭課に依頼して、関係部署への連携方法や連携後の対応の流れ、こども家庭支援課及び児童相談所の役割の研修を実施した。また、子どもに対する注意や指導を行う際には、職員が必要な知識を習得した上で、子どもの発達段階に応じた対応を行うよう努めた。 委員) 本施設が抱える問題は何か。また、来年度に新たに取り組みたい事項があれば伺いたい。 団体) お金の問題がある。指定管理料の88%は人件費であり、残りを掃除や警備システムの導入などを行っている。そのため、自主事業のイベント運営に当たっては、地域の方々や登録ボランティア制度を通じて参加している学生に協力をいただいている。また、不足する財源については、自主事業による確保を検討しており、来年度は敷地内の公園グラウンドを活用した有料スポーツ教室の実施を予定している。具体的には、地域スポーツ団体における参加者減少や子どもの投力低下を踏
--	--

	まえ、同団体の協力のもと、キャッチボール等の講座を企画している。 委員) 金銭面ではなく、施設の役割などの視点で、問題点は何かないか。 団体) 発達障害のある子どもを対象とした放課後等デイサービスの利用者が増加していることから、施設と事前に電話等で館内の利用状況を説明し、その内容を踏まえて利用の可否を判断してもらうなどの調整を行っている。安心して利用してもらえるように施設を運営していきたいと考えている。他にも不登校の子どもが登録ボランティア制度を通じて、イベント装飾の手伝いをしてくれた事例もあるため、そういった外に出るきっかけになれば良いと考えている。 委員) 指定管理料以外に行政への要望あるか。 団体) 不登校の児童生徒たちを本施設で受け入れなどの役割を担えたら良いと考えている。 委員) 5年前の資料を確認すると、子どもゆめ基金の活用を報告があったがどうなったか。 団体) こどもゆめ基金については、本来の助成期間は5年間であったが、期間延長により計8年間の助成を受けることができた。現在、助成期間は終了している。 3 審議 事務局より応募資格要件を満たすこと、欠格事項に該当しないことを報告。後藤委員から応募団体の財務状況が健全である旨報告。 4 審査結果 「公益財団法人 とつか区民活動支援協会」が委員5名の合計得点で480点／575点を獲得した。最低基準点(345点)を満たしているため、同団体を指定管理者の候補者として選定する。
資 料 ・ 特 記 事 項	